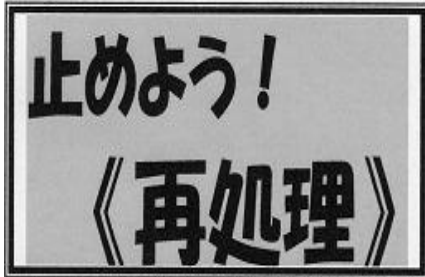


**三陸の海を放射能から守る**  
**岩手の会** (略称) **三陸の海・岩手の会**  
 郵便振替 02240-5-102650  
 ホームページ 《再処理／岩手の環境》  
<http://sanriku.my.coocan.jp/>  
 《本紙の全バックナンバー掲載》



《**天恵の海**》  
 2018(平成 30)年  
 4月 30日  
 第189号  
 編集事務局 S.Oshida  
 TEL・FAX 019-623-1636

**東京横田 基地配備 オスプレイ**

# 三沢 対地射爆撃場 も 訓練地 再処理工場 から 約 10<sup>キロ</sup> の 近接地!

**廃液タンクには**

**危険!**

**広島原爆死の灰の  
 約五八〇〇倍の  
 (セシウム137を比較)  
 膨大な放射能量の  
 高レベル放射性廃液が  
 溜まっている**



飛来したオスプレイ  
 CV22 (4月5日)  
 (TVニュース画面か)



四月五日アメリカ軍のオスプレイCV22五機が東京の横田基地に飛来し轟音を発して次々に舞い降りました。横田基地正門前では、急遽、市民グループによる抗議の集会が開催されました。

米軍の公表では、今回横田基地配備のオスプレイは訓練区域として東富士演習場、三沢対地射爆撃場、沖繩の訓練場を挙げています。青森県にある三沢対地射爆撃場は天ヶ森射爆撃場とも言い六ヶ所再処理工場に近接する場所にあります。万が一再処理工場への誤爆や墜落事故があれば、核災害に発展する可能性があります。折しも、朝鮮半島の非核化と南北平和体制の構築が提起され国際的動きが活発化しました。極東の安全と平和の観点からも再処理工場の危険性は注視されるべきです。

\*国連科学委員会 2000 年報告 (広島原爆) と、政府答弁書 (2013.2 六ヶ所再処理工場の廃液量) で比較

横浜米軍岸壁に揚陸された  
**オスプレイ CV22** (4月4日)



「田中龍作ジャーナル」より

**オスプレイ MV22 の性能**  
 ◆乗務員 4 人定員 24-32 人  
 ◆最大離陸重量 27.4 トン  
 ◆速度 巡航 446km/h  
 最大 565km/h  
 ◆航続距離 3590 km  
 「ウィキペディア」より

**横田基地から三沢まで  
 一時間半?**

オスプレイは安全性に問題があるといえます。ヘリコプターのように垂直離発着出来、水平飛行時にはプロペラを垂直に回転させてスピードを増します。公表されている速力を見て驚きます。巡航速度が時速四四六キロ。ということは一時間強で横田

基地から三沢に來られると言う事です。航続距離が三五九〇キロと言うことは沖繩までも飛んで行けるのだと思います。

**昨年八月オスプレイ初訓練**

昨年八月の青森県紙をみると、「北海道を舞台とする日米合同訓練中にオスプレイMV22が二二日飛来し、三沢市と六ヶ所村にまたがる三沢対地射爆撃場で昼夜一回ずつの初訓練を行った。訓練内容は不明だが、搭乗海兵隊員が射撃の訓練を行った」と報じています。地元平和団体から訓練中止の要請書が出されました。

**高レベル廃液事故を防げ!**

六ヶ所再処理工場には電源が途絶えると沸騰や水素爆発する高レベル放射性廃液が、ガラス固化もされず貯蔵されています。近接地であり非常に危険です。

大量の高レベル放射性廃液を抱えて、戦争は国家破滅の道先ず早急にガラス固化を!

# 六ヶ所再処理工場の高レベル廃液 早急にガラス固化し安全を図れ! 政府答弁書来る

二月二十七日の市民と担当官の意見交換会を踏まえ川田龍平参議院議員を通じて安倍内閣に質問主意書を提出して戴きました。四月六日に政府答弁書が届きました。そのうち六ヶ所工場についての要点、5項目を報告します。

■危険な廃液の量は? 未処理の高レベル放射性廃液は二二三立方メートル

現在までにガラス固化出来たのは約一二五立方メートル、製造のガラス固化体は三四六本です。しかし、それは廃液のうちの半分にも満たず、現在二二三立方メートルの未処理の液体が溜まったままです。ガラス固化しても危険ですが、液体のままではもっと不安定で、頑丈な貯槽に入れて厳重な管理が必要です。すなわち冷却しなければ崩壊熱で沸騰し、強い放射線は水を分解し水素を発生させるため掃気しなければ爆発します。ガラス固化作業も、次第に性能が落ちて来ていることが、表1の途中経過から分かります。開始直後は固化体一本あたりの廃液の量は〇・五三立方メートルでしたが後半は〇・三三立方メートルです。予定量の廃液が入っていない固化体が出来ています。

表1 六ヶ所再処理工場 高レベル廃液ガラス固化の実績(政府答弁書)

項目	アクティブ試験開始～現在	うち途中経過		未処理量
		2007. 11～2008. 1	2008. 2～2018. 2	
処理された廃液量 (m3)	125	30	95	223
ガラス固化廃棄物の容器(本)	346	57	289	430
1体あたりの廃液の量 (m3)	0.36	0.53	0.33	0.52

■IAEAへの報告の怪? 六ヶ所再処理工場の廃液は「ゼロ」の報告?

国際原子力機関(IAEA)は国際条約により四年毎に、各国に高レベル放射性廃液などの核廃棄物の貯蔵量の報告を求めています。ところが、表2のように六ヶ所再処理工場が貯蔵する高レベル廃液の量が二〇一四年と

表2 国際原子力機関(IAEA)への日本政府報告書 2014年

施設		ガラス固化廃棄物	高レベル放射性廃液
		容器数	m3
日本原子力研究開発機構(JAEA)	再処理工場	247	415
	貯蔵施設	1442	0
日本原子力燃料(株)(JNFL)	再処理工場	346	0
総計		2035	415

二〇一八年のいずれも「ゼロ」になっています。この点を質しました。驚いたことに政府答弁書では「日本原燃の線量等報告書をそのまま転載した」というのです。東海再処理工場と六ヶ所再処理工場、事実と異なる報告を政府は国際機関に報告したのでしょうか? これでは、国際的には「高レベル廃液はない」と認識とされます。

■東海再処理工場は「廃液ゼロをめざしているのに六ヶ所工場は「めざさない」? 廃液のガラス固化について、六ヶ所再処理工場は、「供用中の核施設」ではなく「建設中の核燃料施設」であるから、高レベル廃液はそのまま冷却の継続とする。東海再処理工場は廃液の早期安定(ガラス)固化を進め、六ヶ所再処理工場は先行させない、との事です。廃液は東海のものも六ヶ所のものも同じように「超危険物」であり区別はありません。

■ガラス溶融炉の欠陥 国は現在のガラス溶融炉の欠陥を解決する責任がある。ガラス固化体の製造方式を、「ジュール加熱方式」にする。福島原発事故では、電源喪失から二四時間後に水素爆発が起きました。六ヶ所再処理工場では電源が喪失すると約七時間で水素が爆発濃度に達すると原燃が報告しています。政府として、不安定で危険極まりない高レベル廃液を、そのまま液体状態で貯蔵し、国民へ潜在的脅威を与え続けているのか、と質問しましたが答はありませんでした。

国民に真実を伝え 国会で十分な審議を尽くせ。原発や再処理についても、信頼なき政治は、事故の危険性をもたらします。4月14日国会前 (Uチューブ動画)

